

大船渡湾内観測結果(No.7)

“今月の話題”

湾内の水温は17～20℃台であり、例年並となっています。二枚貝等の餌の量を示すクロロフィルは、湾内全域で先月と同程度でしたが、湾奥St.1の表層が非常に高い値でした。海底の溶存酸素は先月よりも上昇しました。

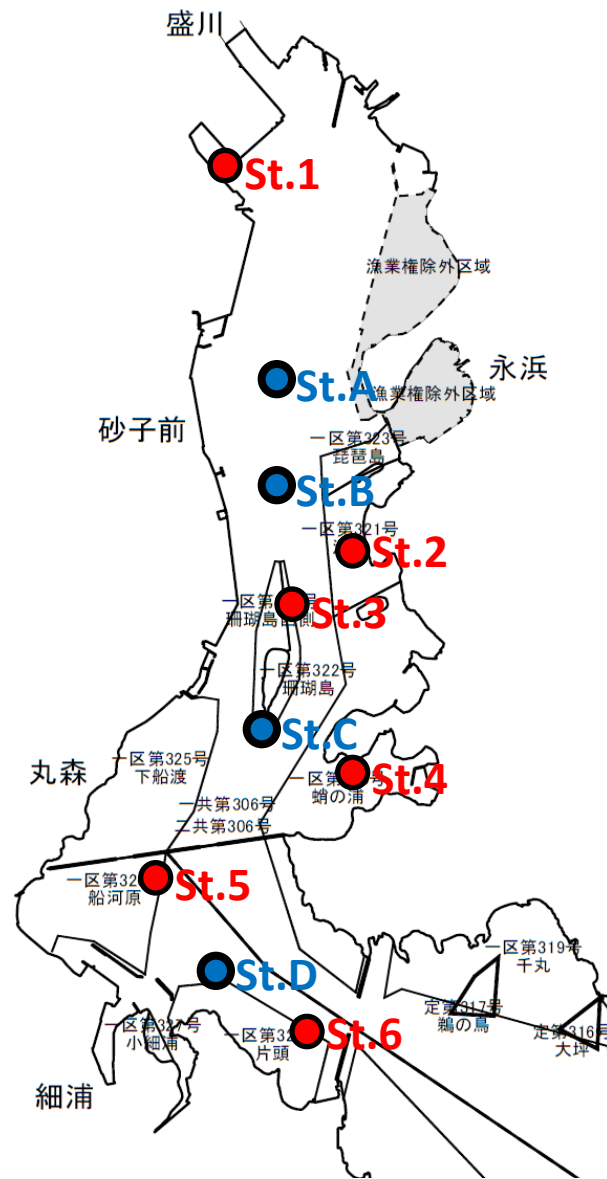
10月24日に行った大船渡湾内観測結果をお知らせします。

透明度は1.5～11.0mであり、平成18年度から平成29年度の平均値と比べて、-2.9～+1.6mの範囲内でした。

水温は水深2.5mが18.3～19.7℃、水深10mが18.9～19.2℃でした。平成18年度から平成29年度の平均値と比べて、水深2.5mが-0.3～+0.6℃、水深10mが+0.4～+0.5℃の範囲内でした。

海域名:大船渡湾
 調査担当:水産技術センター

観測点(St.)		1	2	3	4	5	6
観測年月日		平成30年10月24日					
観測時刻		12:51	13:18	12:10	11:37	11:03	10:17
天候		雨					
気温(°C)		17.2					
風向		-					
風力		0					
水深(m)		8.9	24.4	26.8	18.8	24.8	36.2
透明度(m)		1.5	7.0	5.0	11.0	9.0	8.0
水色		19	7	7	5	6	6
水温(°C)	表層0m	20.1	18.6	18.6	17.9	18.2	18.0
	水深2.5m	19.7	18.6	18.4	18.7	18.4	18.3
	水深10m	-	19.2	19.2	19.1	19.1	18.9
	海底上1m	19.3	19.0	19.0	19.0	18.9	18.8
塩分	表層0m	31.2	30.1	28.9	30.1	30.6	31.7
	水深2.5m	33.4	33.0	33.0	33.2	33.0	32.9
	水深10m	-	33.8	33.8	33.7	33.7	33.7
	海底上1m	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8
溶存酸素飽和度(%)	表層0m	226.8	110.9	104.9	98.5	102.0	102.6
	水深2.5m	103.6	109.7	111.0	87.1	100.4	104.7
	水深10m	-	81.2	93.7	88.9	87.9	93.3
	海底上1m	55.7	65.3	65.5	80.0	79.4	84.0
クロロフィル(Chl-Flu.(ppb)) ※観測機器の測定値	表層0m	19.7	2.9	3.9	1.5	1.5	2.1
	水深2.5m	8.1	3.5	4.1	1.7	1.6	3.0
	水深10m	-	1.9	3.8	1.7	0.9	1.7
	海底上1m	1.6	0.5	0.5	0.8	0.6	0.9



©岩手県（漁業権連絡図）

図1 大船渡湾調査定点図

※St.1からSt.6において透明度の観測や表層0mから海底上1mの水質を観測した。
 St.AからSt.Dにおいて表層0mから水深10mの水質を観測した。

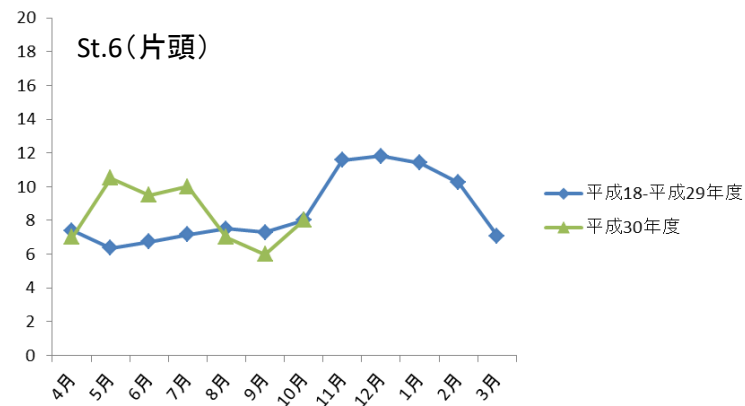
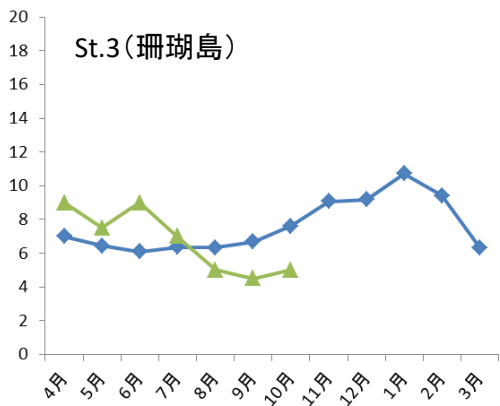
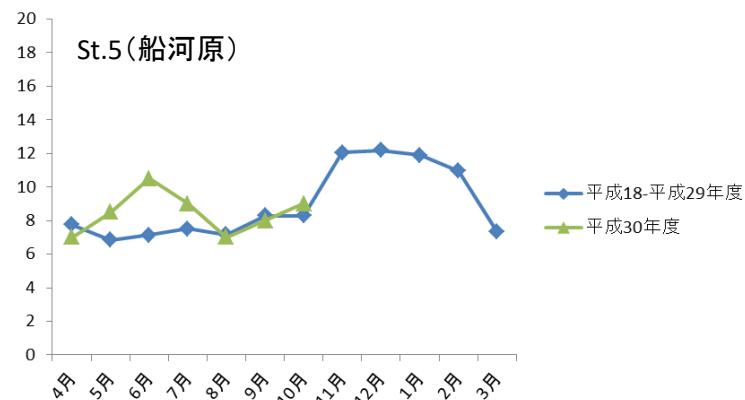
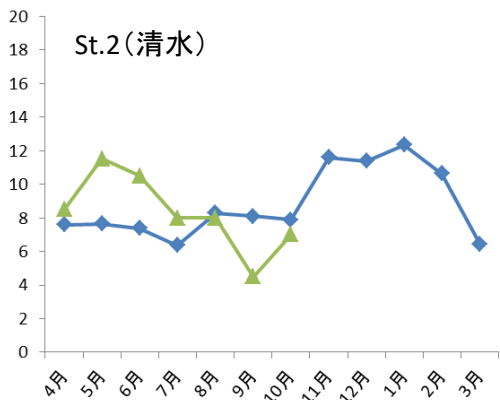
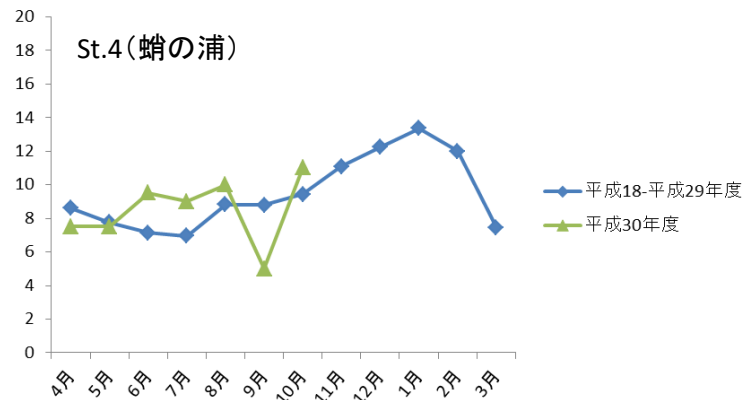
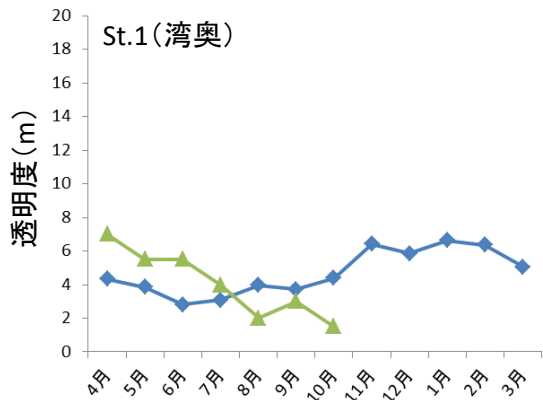


図2 透明度の推移

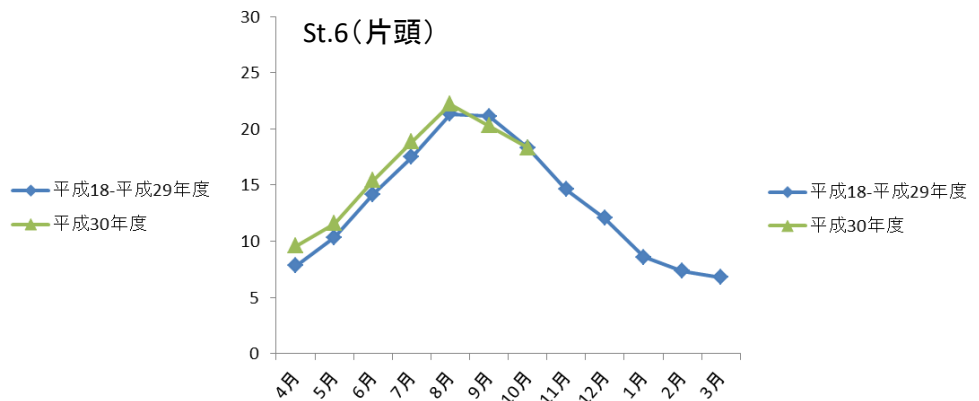
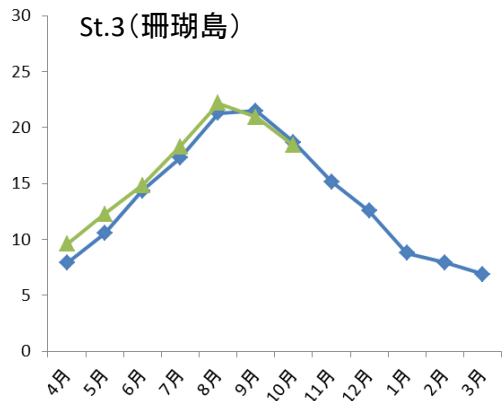
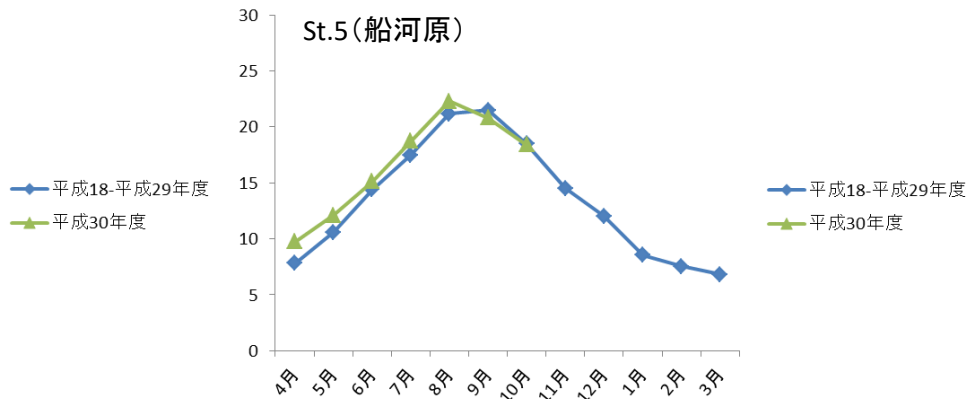
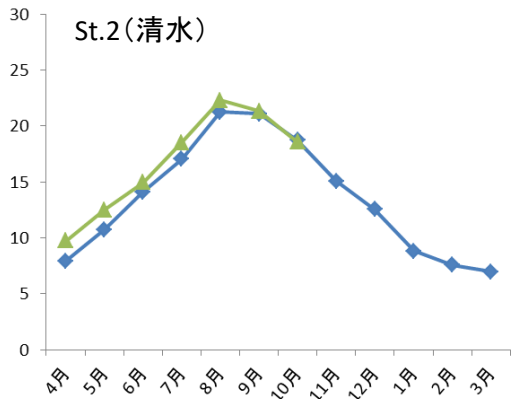
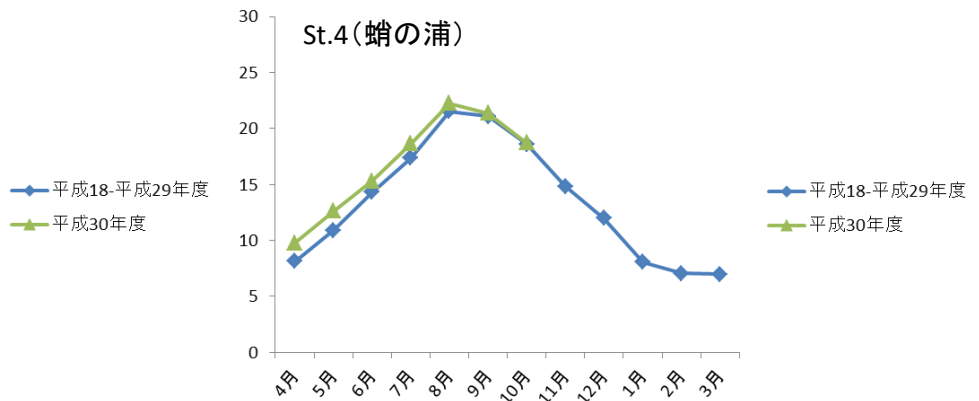
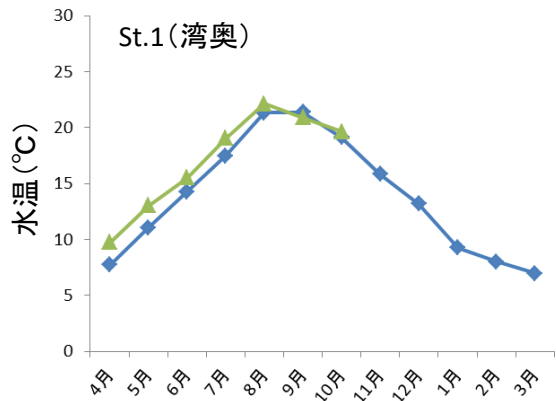


図3 水深2.5mの水温の推移

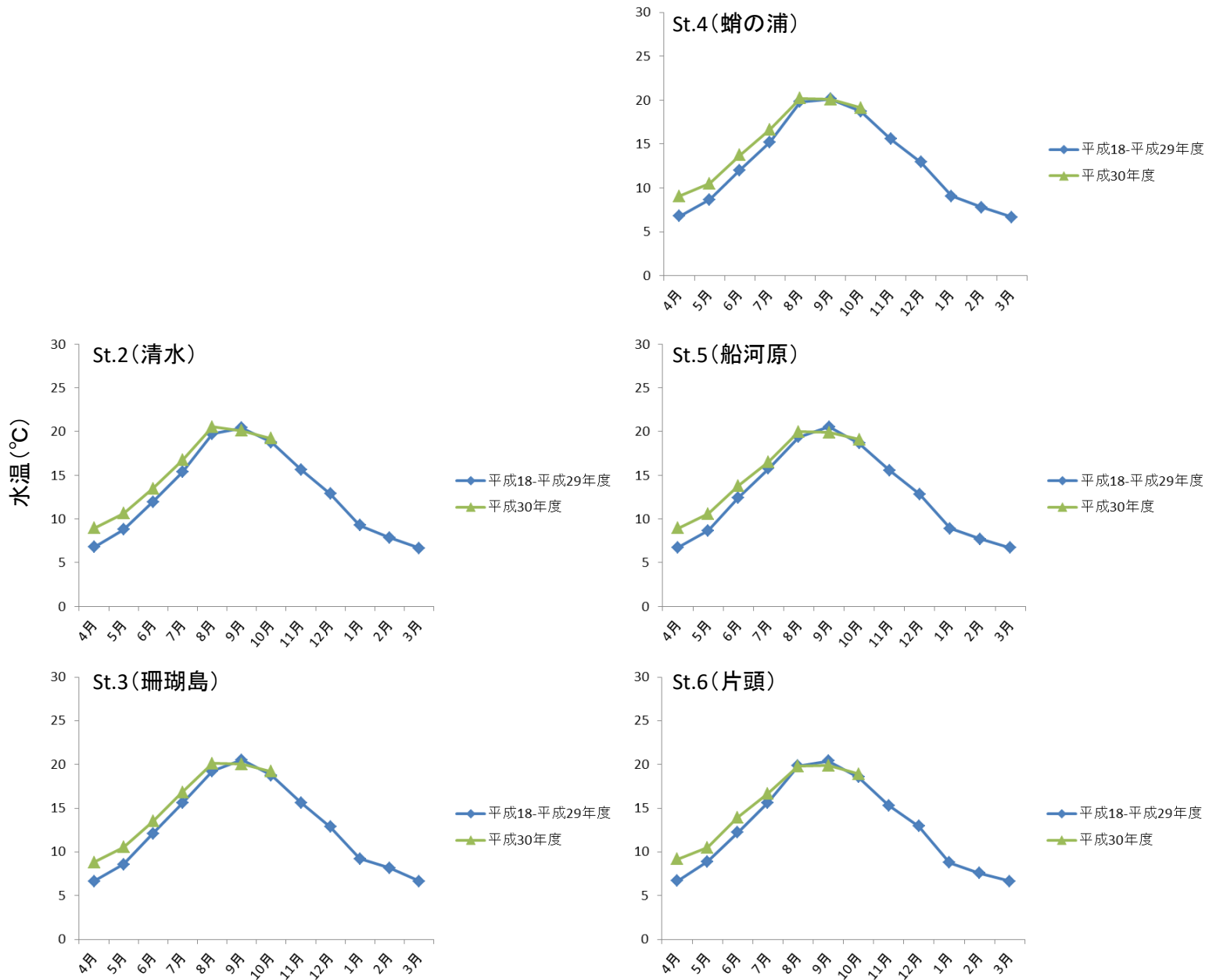


図4 水深10mの水温の推移

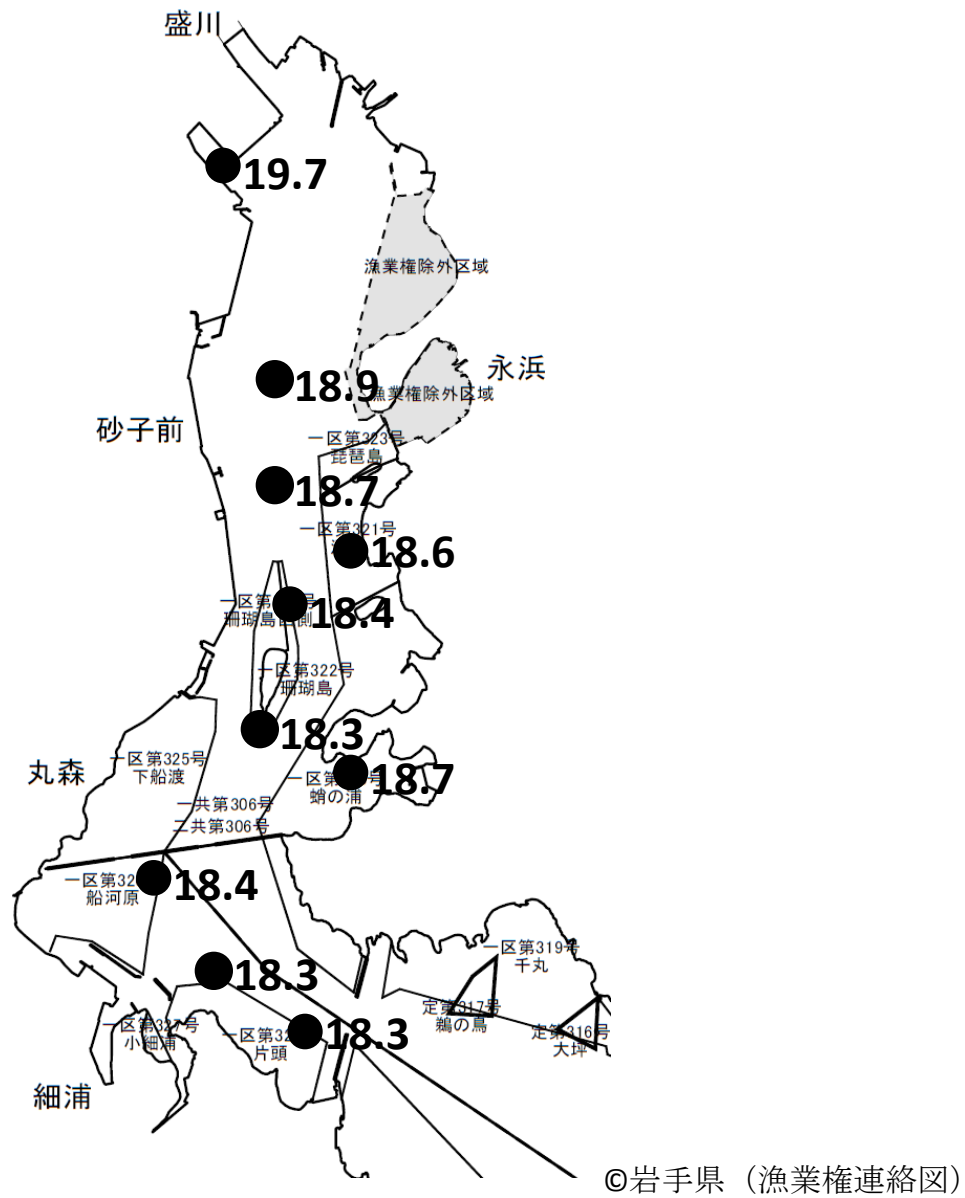


図5 水深2.5mの水温の分布

※湾外から湾内に流入する海水、陸から湾内に流入する河川水、降雨や気温の影響を受けて湾内の水温は変化する。

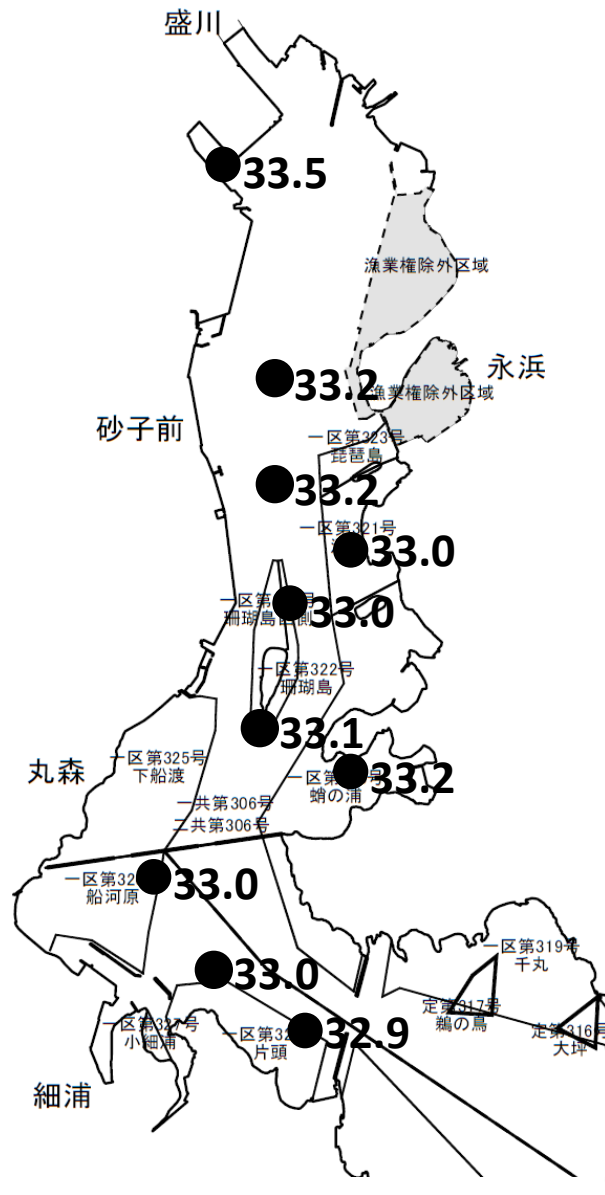


図6 水深2.5mの塩分の分布

※湾外から湾内に流入する海水、陸から湾内に流入する河川水、降雨の影響を受けて湾内の塩分は変化する。

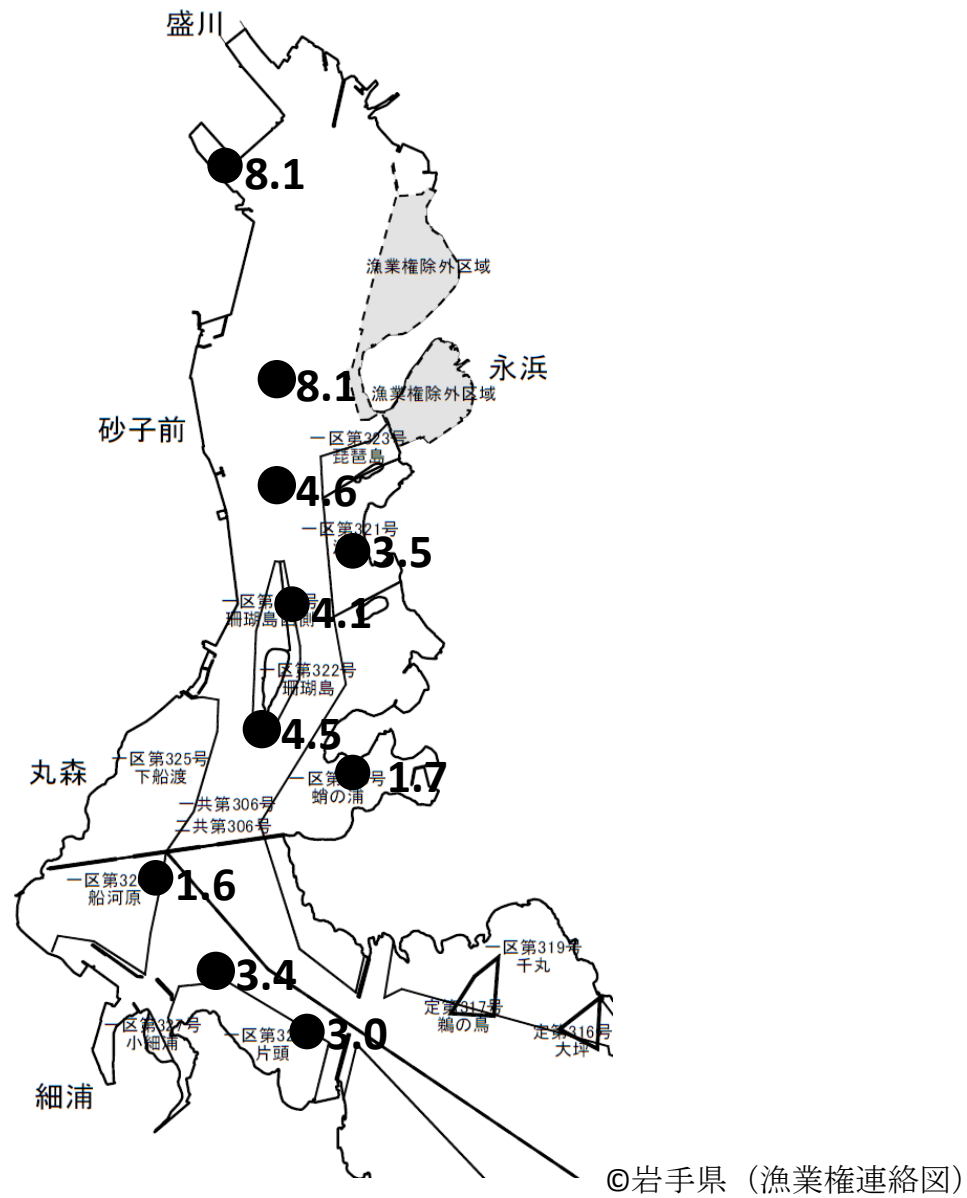


図7 水深2.5mのクロロフィルの分布

※クロロフィルは植物プランクトン量の指標であり、植物プランクトンは二枚貝やホヤ等の餌となる。